

# 立憲民主党 野本れいこ



射止めた諦めない胆力と、草の根中心の粘り強い運動スタイルは、私の目指す理想像となっています。

## — 3人の子育てはどうですか？

子育ては、過ぎてみれば「あんなこともあったな」と大抵は良き思い出の1ページになっているのですが、今、高3の長男は本当に夜泣きがひどくて、当時「孤育て」になっていた私は、毎晩夜が来るのが怖いくらいでした。日中泣くのとまったく別の狂ったような泣き声が静けさの中でやたらと響き、抱っこしながら、隣に寝ている夫を起こさないように気を遣ったものです。こんな時、夫も「育休」が取れていたなら、コミュニケーションがもっと上手に取れていたかもしれません。ただ2005年当時の男性の育休取得率はわずか0.5%ほど。2021年で14%ですから、これは本気で取り組みたい課題だと考えています。

## — お子さんの不登校も経験したとか？

「身体が動きたくないと言っている。」うちの子の不登校はある朝突然、この一言から始まりました。まさかこの子が、と私も思ったものです。その頃は家全体が暗くなり、先が見えない不安にさいなまれ、私は母として何ができるのだろうか、と自問自答する日々。幸い、家庭や学校とは関係のない私の友人達から当時好きだった趣味を褒められて、認められ、世の中には色々な価値観があることに気が付いたところから、自信を回復していくことができましたが、当時の孤立感は今回の挑戦への大きなきっかけにもなっています。

## — 「いつでも再チャレンジできる社会へ」のフレーズに込めた想いを聞かせてください。

大学卒業が就職氷河期ど真ん中に重なった私たちの世代は、就職で大変な思いをした人が多かったんですよね。そして、私自身、子育てが落ち着いたあと、もう一度社会に復帰して正規雇用で働こうと思ったときに、そのハードルの高さに打ちのめされました。子育てがひと段落した女性は社会に必要がない、と理不尽な現実を突きつけられた気がして、愕然としまし

たね。女性の雇用は非正規が多いことも変える必要がありますし、社会全体が女性のチャレンジを積極的に後押しできる環境を整えることが必要だと考えています。埼玉県議会では、定数93議席のうち女性議員はわずか11名。まずはそこに風穴を開けて、誰もがいつでもチャレンジし続けられる社会をつくりたいと考えています。

## — 埼玉県政で、まずはどんな政策課題に取り組みますか？

まず、人口10万人あたり最下位の埼玉県の「医師の数」を増やしたいと考えています。そして今年の1月には、埼玉県内の「救急搬送困難事案」が過去最高の数字を記録しました。命の危険を感じた万が一の時に、救急車を呼んでも搬送先の病院が見つからないなんて、まさかそんなことが日本で起きているなんて信じられますか？この3年間のコロナ禍で、日頃から医療体制や保健所体制をきちんと整備しておくことがどれだけ重要か、皆が身に染みてわかっているはずですが、医療体制の整備は、政治の責任できちんと行う覚悟です。また、学校給食の無償化にも率先して取り組んで行きたいですね。

## — 最後に「決意」を！

どうせ変わらないだろうというあきらめからは、決して何も生まれません。「変わらないなら私を変える、あなたと一緒に変えていく」そんな想いで立ち上がりました。浦和区から「埼玉県政・新時代！」をつくる覚悟で、果敢にチャレンジを続けていきます。どうかあなたの声をお聞かせください。

主権者教育の  
フォーラムも  
開催しています。



子どもたちとともに  
「見沼たんぼ」の保全活動に

RIKKEN MINSHU | 号外 2023年2月号

プレス立憲民主編集部 ▶ 〒100-0014 千代田区永田町1-11-1-7F TEL.03-3595-9988 FAX.03-3595-9088  
立憲民主党埼玉県連 ▶ 〒330-0063 さいたま市浦和区高砂 3-6-16 TEL.048-833-3500 FAX.048-833-3503  
野本れいこ 連絡先 ▶ 〒330-0065 さいたま市浦和区神明 1-7-16 TEL.080-6029-8268 FAX.048-611-9243  
E-mail:yume.saitamakai@gmail.com

